

●研修概要

●研究●

- [1] 単著論文（和文）『環境税制改革の政治的実現可能性』を執筆した。本論文は、2016年の日仏経済学会 Bulletin 誌 Vol.30 に掲載された。
- [2] Antung Anthony Liu 氏（インディアナ大学, 助教授）とともに『Environmental policy in the presence of induced technological change（英文, 誘導された技術変化の下での環境政策）』を執筆した。本論文は、査読付き雑誌 Environmental and Resource Economics 誌上での出版を受理され、近刊予定である。
- [3] Mouez Fodha 氏（パリ第一大学, パリ経済学校 教授）と Thomas Seegmuller 氏（エクス・マルセイユ大学 教授）とともに『Environmental tax reform under debt constraint（英文, 国債制約下の環境税制改革）』を執筆した。本論文は、2017年6月に開催された欧州環境資源経済学会（EAERE）年次大会をはじめ、数々のフランスの大学のセミナーで報告された（報告者 Fodha 氏）。また、本論文は査読付き雑誌 Annales of Economics and Statistic 誌の Vol.129 に掲載され、出版された。
- [4] [3]の研究を拡張し、Mouez Fodha 氏と『Mitigation, Adaptation and Public Finance（英文, 緩和, 適応そして財政）』を執筆中である。本論文は2019年7月の欧州環境資源経済学会(EAERE)の年次大会での報告論文として投稿予定である。
- [5] 溝渕健一氏（松山大学, 教授）との共著論文として、『Time Rebound Effect of Households' Energy Use: Theory and Evidence（英文：家庭のエネルギー使用量に関する時間リバウンド効果：理論と実証）』を執筆した。本研究は、私が研究分担者を務める科研（基盤 C）に関連する。尚、本論文は2018年9月の環境経済政策学会(SEEPS)で報告予定である。
- [6] 堀健夫氏（東京工業大学, 准教授）とともに『Intellectual Property Protection in the Presence of Exhaustible Resource（英文：枯渇性資源の下での知的財産権保護）』を執筆した。本論文は私が代表を務める科研（若手 B）に関連する。本研究論文は、Environmental Economics and Policy Studies 誌上での出版を受理され掲載予定である。
- [7] 堀健夫氏（東京工業大学, 准教授）と荒渡良氏（名古屋大学, 准教授）とともに『Redistribution of Emission Tax Revenue between Firms and Households（英文：環境税収入の企業・家計間の再分配）』を執筆した。本論文は、2018年5月のベルリン自由大学での公開討論会と、同年6月に開催された環境・資源経済学世界会議（WCERE2018）にて報告された。

●研究交流●

◎ ヒアリング

[1] 2016年

奥平寛子氏（ロンドン市大学 客員教授，岡山大学 准教授）から、取り組みたいと考えている研究に関する専門的な意見をいただいた。

[2] 2016年

西村健佑氏（ICH Berlin 専門調査員，筑波大学 客員研究員）から、近年のドイツのエネルギー利用技術（住宅）の現状をうかがった。

また、ベルリン自由大学を訪問し、東アジア研究科での客員研究員受け入れ可能性について意見をうかがった。

[3] 2018年6月

永野護氏（成蹊大学，教授）と鈴木史馬氏（成蹊大学，准教授）とフランクフルトで面会し、環境や金融に関して今後の研究への発展可能性について議論した。

◎ 国際会議・セミナー

[1] 2016年9月～2017年6月まで（週1回）

パリ第一大学とパリ経済学校（Paris School of Economics）が共催する「規制と環境に関するセミナー（Seminar on Regulation and Environment）」に出席し、最新の研究について見分を広げた。

[2] 2017年5～7月

社会科学高等研究院（EHESS）で開催されるワークショップ（不定期）に出席し、私の専門と直接的に関連しなくても、応用可能性のある研究報告を聴講した。

[3] 2017年6月

欧州環境資源経済学会(EAERE)に出席し、最新研究を聴講した。研究[2]の論文が報告され、質疑応答内容を踏まえて共同研究者の Fodha 氏と議論した。

[4] 2017年7月

パリ第2大学パンテオン・アサス校で開催された公共経済学理論学会（APET）の年次大会にて、研究者らと交流をもち、最新の研究について議論することができた。

[5] 2017年8月

欧州経済学会(EEA)の年次大会に出席し、最新研究を聴講した。その際、鈴木史馬氏(成蹊大学)と「環境と金融」の研究に関する打ち合わせを行った。また同大会にて、資産価格決定と気候変動に関する研究を共に聴講した。同様に、同大会にて生藤昌子氏(筑波大学)と報告された研究に関し、各自の研究テーマの拡張可能性について議論した。

[6] 2018年1月

松山大学・東京工業大学・成蹊大学に出張し、現在進行中の研究内容についてそれぞれ議論した。また、青山学院大学で開催されたセミナーに出席し、内田雄貴氏(成蹊大学, 専任講師)と久保田荘氏(東京大学, 助教)の報告を聴講した。

[7] 2018年3~7月

ベルリン自由大学東アジア研究科にて開催されるセミナー・ワークショップ(不定期)に出席し、他分野研究について見地を広げ、研究者たちと交流することができた。

[8] 2018年4月

第9回 日独環境・エネルギーフォーラムに出席し、特にエネルギー問題の実務上の課題・現状について知見を広げることができた。また、官僚を含め日本政府側で動いている実務家との交流を持つことができた。

[9] 2018年5月

ベルリン自由大学におけるオープンコロキウム(公開討論会)において、共著論文[7]を報告した。

[10] 2018年6月

松山大学・東京工業大学に出張し、現在進行中の研究内容について議論した。

[11] 2018年6月

スウェーデンのヨーテボリ大学で開催された環境・資源経済学世界会議(WCERE2018)に出席し、最新研究について聴講した。また、同会議において共著論文[7]を報告し、質疑応答で討論者やフロアからいただいたコメントについて共同研究者である堀氏と議論した。